

# 健康保険

2015  
September

9

特集

## 効果的な体力づくりに向けて

中高齢者への健康づくり支援の必要性について

運動支援のリスクマネジメント

関係者との連携と施設を活かした健康・体力づくりを展開

—ボッシュ健康保険組合の取り組みから

第50回 健康強調月間 —生活習慣病予防普及月間—

医療保険制度改革関連法の概説・後編

やまけんの  
日本まるごと  
食探訪  
香川県  
さぬき市

健康保険。みらいのために、今、変えよう。

あしたの健保プロジェクト

# 骨

太の方針2015において、これまで3年間の国の歳出増加額は1・6兆円程度となっていることを踏まえ、その基調を2018年度まで継続させていくこととし、プライマリーバランス（基礎的財政収支）については、18年度の赤字は対GDP比▲1%、20年度達成を目指すこととされた。これに沿って閣議決定された15年度概算要求基準に基づき、16年度厚生労働省予算概算要求が財務省に提出されたが、医療保険関係については高齢化などに伴う増加額を加えて11兆4561億円の要求となっており、16年度診療報酬改定の取り扱いを含め、今後の予算編成作業のなかで具体的内容が決定されることになる。

医療費国庫負担は、国の歳出に占める割合が最も高く、経済成長率を上回る増加を続けてきた。14年度の実質GDP成長率は▲0・9%、15年4～6月期の実質GDP成長率は▲0・4%と厳しい経済状況にあり、今後の経済動向いかによっては年末に向けてさらに医療費国庫負担の削減と被用者保険料への負担転嫁を打ち出される恐れもある。

健保連は、16年度の診療報酬改定・健保法改正等の及ぼす影響を注視し、政府および与党に対して関係団体等と連携して、安定した健康保険運営に必要な財源確保および徹底した医療費の効率化方策の展開を強く要望していききたい。

医療に対する安心感を高めるためには、医療保険制度の将来に対する信頼を高めながら、医療の安全・安心を確保することが不可欠で

## 医療及び医療保険制度に 対する信頼と持続性を 高めるために

ある。医療は、人間の健康の維持・回復・促進などを目的として人体に対して何らかの積極的な作用・影響を及ぼすことを目的とした行為であり、身体になんらかの障害を与えることもある。高度に専門化した現代の医学は健康改善に役立っていないばかりか、むしろ病人をつくり出し、医療に依存させているとして医療病を警告した思想家もいた。東京女

子医科大学病院において心臓手術を受けた2歳男児のプロポフォル投与による死亡事案、群馬大学医学部附属病院における腹腔鏡手術を受けた多数の患者死亡事故などが相次いで、医療不信が深まった。他方、医師の約9割が医療事故に対する不安があるとの調査報告もある。

医療に関わる過誤・事故は、不可避な事案も含めさまざまな要因・原因が絡んでいる。

医療行為によって得られるメリットが大きければよいが、生じる被害・マイナス効果が大きければ医療として不適切ということになり、刑事・民事・行政上のさまざまな問題が生ずることもなる。医療に対する国民の信頼が低下することは、いたずらに不安感を増

加させ社会的費用を増大させることにもなる。大事なことは、医療事故の原因究明と再発防止であり、医療に対する信頼の回復と向上である。このことが起点になって、医療の適正化と医療費の効率化も可能となってくる。本年10月からスタートする医療事故調査・支援センターが適切かつ効果的にその役割と機能を果たすよう大いに期待したい。